



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4324 号 2018.4.17 発行

「養子のこと知って」 渋谷109前でイベント 福祉新聞 2018年04月17日 編集部
イベントには多くの若者が足を止めた



4月4日の養子の日に合わせて、特別養子縁組など多様な家族の在り方を広めるイベントが7日、東京・渋谷で開かれた。日本財団の主催。イベントは、SHIBUYA109前に特設ステージを設置。東京農業大の学生によるパフォーマンスや、トークイベント、養子に関する謎解きクイズなどが行われた。

また、フォトジェニックなスポットも設置され、ハッシュタグ「#よーしの日」などを付けてツイッターに投稿すると、画像が手のひらサイズのカードに印刷されるサービスも実施した。

さらに、社会的養護の現状や、養子を希望する場合の流れを紹介するパネルなども設置された。

イベント会場はファッションの聖地と言われる場所柄、多くの若者が足を止めていた。日本財団福祉特別事業チームの杉本裕子さんは「若い層にもっと養子のことを知ってもらい、選択肢の一つとして考えてもらえれば」と話した。

児童虐待全件を警察と共有 愛知県が協定 中日新聞 2018年4月17日

愛知県と県警は十六日、県が管轄する児童相談所（児相）が通告を受けた児童虐待について、全件の情報を共有することを定めた協定を十八日に結ぶと発表した。過去には、虐待が疑われる情報を児相が把握しながら、子どもが亡くなったケースもあった。情報共有により、早期発見と深刻化の防止を図る。同様の取り組みは高知、茨城県に次いで三県目。

医療機関や付近住民などから「虐待の疑いがある」と通告を受けた全事案について、子どもの名前、住所、生年月日を一カ月ごとにまとめ、翌月に県警に提供する。愛知県内の児相はこれまで、厚生労働省の通知に従い、対応した事案のうち、所長が「刑事事件として立件可能性がある」と判断した場合に警察へ情報提供してきた。協定では「児童が負傷、衰弱したり、性的虐待が疑われたりする深刻な場合は速やかに情報提供する」と記した。

大村秀章知事は十六日の定例会見で「虐待の芽を発見し、深刻化を防ぐため、網の目を細かくすることが大切」と述べた。県警少年課の杉浦巖課長も「これまでも運用レベルで協力してきたが、協定で根拠がはっきりし、迅速な対応が可能になる」と意義を強調する。

県によると、二〇一六年度は県の児相に四千二百九十七件の虐待相談があり、七年連続で過去最多を更新した。県警に情報提供した事案は十四件あった。今後、協定に従って情報を提供するのは、政令指定都市の名古屋市を除く県内の児相。名古屋市は、一一年度から市内の児相に警察官を配置しており、別に協定を結ぶかは今後、県警と協議する。

強制不妊 施設関係者に聞き取り 山形県知事が意向 毎日新聞 2018年4月17日

山形県立の知的障害者施設が1960年代、女性入所者に対して旧優生保護法（48～96年）に基づく集団での不妊手術を要求していた問題で、山形県の吉村美栄子知事は17日の記者会見で「手術をされた方々の思いもある。事実解明を早急にすべきで、施設関係者らにも聞き取りをすべきだと思う」と述べ、関係者への聞き取り調査を実施したいとの考えを示した。手術が実質的に施設側の強制だったのではないかとの指摘については「現代の私たちならそういう思いを持つと思うが、当時の管理者側も法で決められたことを実行しないといけない立場。現代の私たちが考えるのとは違い、申し上げるのは難しい」と述べた。県は、女性入所者らが集団手術を受けさせられたとの訴えを把握しており、この施設を含む三つの施設に残されている書類を既に調査していることを認めた。だが、調査経過や内容については明言を避けた。【松尾知典、二村祐士朗】

「#MeToo」運動につながる報道にピューリッター賞 朝日新聞 2018年4月17日



昨年11月、ミャンマーから急ごしらえのいかだで川を渡り、対岸のバングラデシュを目指す少数派イスラム教徒ロヒンギヤの



人たち＝ロイター。ロヒンギヤ難民をめぐるロイター通信の一連の写真は米ピューリッター賞を受賞した

米国の優れた報道に贈られるピューリッター賞の受賞者が16日、ニューヨークのコロンビア大学で発表された。公益部門では、ハリウッドの大物プロデューサーらのセクハラや性暴力を報じたニューヨーク・タイムズ紙とニューヨーカー誌が選ばれた。



一連の報道は、「#MeToo」を合言葉にセクハラ被害者が声を上げる運動につながり、社会のセクハラに対する見方を一変させた。受賞を発表したカネディー事務局長は「裕福で権力を持つ性的搾取者を暴き出し、抑圧や残虐性、口止めに対する責任を追及し、女性への性的虐待を償わせる衝撃的な報道だった」と評価した。

調査報道部門では、アラバマ州の上院議員補欠選挙で有力だった共和党候補のセクハラ疑惑などを掘り起こしたワシントン・ポスト紙が選ばれた。この候補は落選した。国内報道部門は、トランプ大統領の関係者とロシアのつながりを追ったニューヨーク・タイムズとワシントン・ポストが共同選出された。

特集写真部門では、ミャンマーのロヒンギヤ難民を撮影したロイター通信が選ばれた。（ニューヨーク＝鶴飼啓）

<発達障害>「理解深めて」富谷で保護者向け通年研修始まる

河北新報 2018年4月17日

発達障害の子どもがいる保護者らを対象にした通年研修会が、富谷市成田公民館で始まる

った。年10回の研修で障害への理解を深め、子どもへの接し方に生かしてもらおうのが狙い。同市の会社社長木村一也さん(44)が、発達障害のある長男の養育経験を基に初めて企画した。



発達障害の基礎知識を学んだ初回の研修会

研修会は無料で、来年2月まで月1回程度開く。障害の基礎知識や関わり方、福祉制度を学び、わが子の特性などを周囲に伝える書類「サポートブック」作りに取り組む。

10日にあった初回の研修で木村さんは、長男が小学1年の時に友達とうまくコミュニケーションが取れず不登校になり、半年かかって発達障害と診断された経緯を紹介。「自分も周囲も理解がなく苦しんだ。同じような悩みを抱えてほしくない」と語った。

講師を務める臨床発達心理士の菅原佐和子さんは、発達障害について「親の育て方や育った環境が原因ではなく、本人のやる気の問題でもない」と説明。障害による行動の特性を知り、本人に合った対応に留意するよう呼び掛けた。

2回目は5月8日。大和町南部コミュニティセンターでも4月19日、同じ内容の通年研修会が始まる。定員は富谷、大和両会場ともに20人。電話かメールで前日まで申し込みを受け付ける。

連絡先は、木村さんの会社が運営する「放課後等デイサービスQキャンプ富谷」022(346)9510。メールはinfo@manalive.co.jp

「子ども食堂」映画に 虐待、里親 児童の苦悩描く 「現状知って」と佐野監督

西日本新聞 2018年04月17日

子どもに温かい食事や居場所を提供する「子ども食堂」を舞台にさまざまな事情を抱える子どもと周囲の交流を描いた映画「こども食堂にて」が完成した。映画監督デビュー作「わたし、生きてていいのかな」で児童虐待の問題を取り上げた佐野翔音(しょうおん)監督(58)が子ども食堂の活動に感銘を受けて製作した。製作費の一部はクラウドファンディングで募り、いずれも女優の川上麻衣子さん、柴田理恵さんが特別出演、五大路子さんが友情出演している。

映画撮影中に打ち合わせる佐野翔音監督(中央)と本下はのさん(左)



俳優や映像ディレクターとして活動していた佐野さんは深刻化する児童虐待の現状を知り、2015年まで5年間かけてデビュー作である前作を撮影。自治体やNPOなどが主催し、全国の45カ所で上映会が開かれた。

佐野さんは上映会で子ども食堂主催者と出会い、子どもたちを温かく受け入れ、交流拠点にもなっている子ども食堂の活動に魅せられて映画製作を決意。公益財団法人「麒麟福祉財団」の助成金も受けた。俳優仲間らに協力を求めたところ、女優の北原佐和子さん、平田友子さんらが出演を快諾した。

映画は親から虐待を受けた経験がある主人公の二十歳の女性が子ども食堂にボランティアとして参加するところから始まる。里親の元で暮らす子どもの苦悩を描き、社会的養護の在り方も考える内容となっている。主人公は前作に続き、都内の大学生本下はのさん(20)が演じている。

佐野さんは「子どもを取り巻く環境は厳しさを増しているように感じる。地域に根ざす

子ども食堂と、より重要になっている里親の現状を知ってもらいたい」と話す。

■公開資金支援を呼び掛け 映画館での上映は決まっておらず、佐野さんは映画公開資金などの支援を求めている。問い合わせの電話は、映画製作チームSunshine＝03（4455）4649▽メールアドレスはsunshine20170907@gmail.com

荒れた少年時代、改心し医療で活躍 佐世保中央病院の日和田さん 自分が認められた喜び知り【長崎県】 西日本新聞 2018年04月17日 医療の現場で活躍する日和田さん



佐世保市大和町の佐世保中央病院認知症疾患医療センターで働く精神保健福祉士の日和田正俊さん（29）＝佐世保市黒髪町＝は、中学、高校と非行を繰り返す“札付きのワル”だった。巡り合った医療の仕事での一人の患者との出会いから、今では認知症予防の講師として表彰されるまでに更生した。自分が受け入れられている喜びを知ったとき、人は変わった。

認知症の患者や家族を問診し、アドバイスをするのが日和田さんの主な仕事だ。一方で認知症予防専門士として、病気について学び、患者と家族を支援する「認知症サポーター」の養成講座の講師を務める。国も勸奨する制度で、2017年度は829人のサポーターを育成し、佐世保市内で最多。仕事ぶりが認められ、市の福祉活動の拠点である福祉活動プラザから感謝状が贈られた。

柔らかな物腰と口調で患者に慕われるが、出身地の平戸市で過ごした少年時代は荒れていた。中学1年でグレて、「かっこつけたくて」たばこ酒を覚えた。制服のズボン先輩から譲り受けた「ボンタン」で、ミニバイクに乗って遊んだ。進学した猶興館高では勉強はからっきし。8教科中7教科が赤点で、定期考査は222人中219番だったことを覚えている。ラグビー部に所属し、ナンバー8で活躍したが、引退後、非行がエスカレート。停学は3回、補導は数知れず。「どうしようもない自分だった」。他校の生徒を相手にけんかに明け暮れた。

卒業後、母美子さんが看護師だった影響もあり、福岡市の医療系専門学校に進学した。そこで変わった。3年の時、国家資格の精神保健福祉士を取るため病院で、精神疾患の患者と寄り添う実習を体験。重度のうつ病を患った40代の男性会社員を担当した。自殺の恐れがあり、鉄格子の病棟にいた男性の悩みを毎日徹底的に聞いた。表情がなかった男性が日に日に明るくなっていく様子を見た。

手ほどきを受け、世話になった病院職員の空見悦子さんに「日和田君は人の話を聞くのがうまい。向いているよ」と褒められた。高校時代「もう辞めてくれ」と教師から退学を促されるほど人に迷惑をかけてばかりいたのに、今度は「認めてもらった」のだ。一般病棟に移った会社員の男性は約1カ月半で回復し、元気に退院した。天職だと思った。

卒業後、福岡の病院を経て2012年に佐世保中央病院に就職。結婚し、2人の子どもがいる。「患者さんに寄り添い、つらい気持ちを分かち合いたい」と話す。最近、病院で高校時代の教師に偶然、再会した。「おまえがこんなにまともになるなんて」とおいおい泣かれた。「あれだけグレていた人間が真人間になったんですからね。そりゃ、泣かれますよね」。日和田さんは照れくさそうだった。

タブー視しないで 家庭での性教育

NHK ニュース 2018年4月17日

家庭で子どもに性について聞かれたらどう答えますか？年頃のお子さんにどう説明したらいいのか、そもそも説明しないほうがいいのか。悩んだ経験がある方も多いのではないのでしょうか。タブー視されがちな性について子どもが小さい頃から家庭で教えていこうとす

る動きが始まっています。(さいたま放送局記者 清有美子)

性を話すきっかけはカードゲーム

今月、家庭で進める性教育をテーマに、都内で開かれた講習会には、小さな子どもや思春期の子どもを持つ母親たちおよそ80人が集まりました。

講習会で、母親たちは「オス」や「メス」「交尾」など、性に関する言葉が書かれたカードを使って遊んでいました。カブトムシやパンダなど、昆虫や動物の交尾の様子がイラストで描かれています。

このカードは、遊びながら性について子どもに伝えるきっかけにしてみようと講習会を主催した「パンツの教室協会」代表理事、のじまなみさん(36)が作ったものです。のじまさんは「性の話は回数を重ねることが大切です。『交尾』など性に関する言葉を母親たちがタブー視することなく言うことができ初めて子どもと話せるようになります。まずは、母親が恥ずかしいという気持ちを取り払ってください」と話していました。

どう伝える？多くの母親の悩みとは

泌尿器科の看護師として病院に勤めていた、のじまさん。子どもに性をどう伝えたらよいか悩む母親たちの姿を数多く目にしたといいます。その経験から、家庭での性教



育を進めるための講習会を始めることにしました。

のじま なみさん

講習会では、“とにかく明るく”を合い言葉に、笑いを交えながら男女の性器の仕組みなどを子どもに説明するためのノウハウを教えています。この中でのじまさんが強調していたのは「3歳から10歳までの間に家庭で性の話をしてください」ということでした。

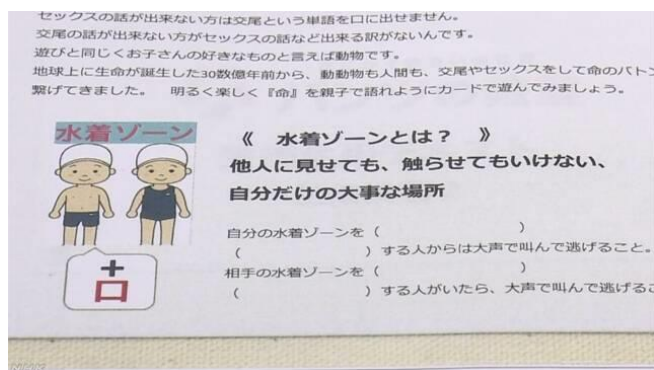
小さい子どもに性教育 そのねらいは

性教育を3歳から?! 早すぎるのではないかと思われるかもしれませんが、それには理由があるそうです。

一般的に、体が発達して性の知識が必要になるのは子どもが思春期になる頃ですが、思春

期は子どもが親と距離を取り始める時期でもあります。だからこそ、小さい頃から性について話せる関係や習慣を作ることが欠かせないと、のじまさんは説明します。

「おっばい」や「おちんちん」など性に関する言葉が大好きで自分から話題を振ってくる3歳ごろから継続的に話していくことが大事なんです。子どもが思春期に入る前に話した回数が多ければ多いほど本当に向き合わなければいけない思春期の時期に話をするのが簡単になります」(のじまさん)



3歳の子に どう伝える？

参加した母親のひとり、3歳の息子がいる相良沙織さんは、男の子の体のことをしっかり知っておきたいと講習会に参加しました。

この中で相良さんが興味を持ったのは「水着ゾーン」です。「水着ゾーン」とは、水着で隠れている場所は“他人には見せても触らせてもいけない自分だけの大事な場所”だと子どもに教えるための表現です。

講習会の後、相良さんは、学んだことを家庭で3歳の息子の奏太くんに実践しました。

まず、奏太くんと一緒にカードゲームをしながら性について話すきっかけを作ります。そして、「水着ゾーン」と言われる胸やお尻などの場所を教えながら『水着ゾーン』は自分の大事な場所なんだよ。誰かに触らせたり、誰かの『水着ゾーン』を触ったりしてはいけないよ」と説明しました。

奏太くんは相良さんの胸元やお尻をさして「水着ゾーン」と復唱し、理解できたようでした。

相良 沙織さん

相良さんは「子どもは大人の話は何でも聞いているので、毎日毎日、『愛してるよ』という言葉と一緒に伝えていけば自然に理解できるようになるのかなと思いました」と話していました。

“知識はお守り”

こうした性について、学校ではどのように教えているのでしょうか。

文部科学省の学習指導要領では小学4年生から保健体育や特別学習の時間に学ぶとされています。しかし、体の発達や発育の説明はあっても、小中学校では性交渉については扱われていないことが多いと、のじまさんは指摘しています。そのため、家庭で話すことが重要になるとのじまさんは話します。

小さい頃からインターネットを使いこなす今の子どもたちは、親の知らないところで簡単に情報を手に入れます。しかし、子どもが学校で教えられないことのない性交渉などについてネットで調べようとするとどうなるのでしょうか…。ネット上には過激な動画や誤った情報があふれています。そこで、のじまさんは訴えています。



「インターネットを通じて子どもが性に関する情報をシャワーのように浴びる前に、また、間違っただけの情報を信じてしまう前に、親の口から正しい知識を伝える必要があります。“知識はお守り”です。親との関わりが多い小さな子どもの頃から性の話は必ずしたほうがいいです」



望まない妊娠 減らす効果も

正しい知識を持つことは子どもを性被害から守ったり、また、将来、加害者になることを防ぐことにもつながります。

若年妊娠や出産をめぐる問題に取り組む「日本家族計画協会」の調査では、中学生になっても親と話すなどコミュニケーションがよく取れていた子どもは性体験の年齢が遅くなること

が分かり、望まない妊娠や性感染症を防ぐことにつながるとしています。

また、秋田県では中学生や高校生に対し、医師などによるきめ細かい性教育を行ったところ、10代の人工妊娠中絶率が減少したということです。

性の話題はタブー視されがちですが、インターネットなどでさまざまな情報があふれている時代だからこそ、子どもが小さい頃から性について話せる環境を作ることが求められていると感じました。



障がい者の文化芸術推進 公明新聞 2018年4月17日 法案を提出する山本氏（左から5人目）ら＝16日 国会内 公明などと野党で法案提出

障がい者の文化芸術活動を幅広く進める「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律案」（議員立法）が16日、自民、公明、民進などと野党7会派の共同で参院に提出された。公明党から、同法案を取りまとめた超党派議員連盟の山本博司事務局長のほか、佐々木さやか、三

浦信祐の各参院議員が出席した。

同法案には、障がい者の文化芸術に関する国や自治体の責務や鑑賞の機会拡大、作品の専門的な評価、権利保護の推進に向けた環境整備を進める規定などが盛り込まれた。提出後、山本氏は「障がい者団体などの意見を法案に反映させた。早期成立をめざす」と述べた。

アビリンピック 競技で職業能力アップ 出場者を募集 /和歌山



毎日新聞 2018年4月17日
2017年に開かれた「アビリンピック和歌山2017」で技能を競う出場者たち＝和歌山県提供

県は、和歌山職業能力開発促進センター（和歌山市園部）で6月23日に開催する第16回県障害者技能競技大会（アビリンピック和歌山2018）の出場者を募集している。

アビリンピックは、障害者が職場で培った技能を競い合うことで能力を高め、雇用促進につなげる。実施する競技は、ワープロ▽喫茶サービス▽製品パッキング▽ビルクリーニング▽オフィスアシスタント▽パソコンデータ入力等の6種目。各競技の優勝者は11月に沖縄県で開催される全国大会への出場権を得る。

出場資格は、15歳以上で、競技に耐えられる健康状態も求められる。県労働政策課は

「一人でも多くの人に応募してほしい」としている。

申し込みは5月21日まで。申し込み・問い合わせは、独立行政法人「高齢・障害・求職者雇用支援機構」和歌山支部（073・462・6900）まで。【高橋真志】

詩と絵が会おう詩集絵本応募作品展 障害者とコラボ作品 県庁で20日まで /香川

毎日新聞 2018年4月17日

展示された詩と絵を見る来庁者=香川県庁で、瀧見雄大撮影



県庁1階ギャラリーで16日、障害がある人たちが書いた詩などを展示する「詩と絵が会おう詩集絵本応募作品展」が始まった。20日まで。無料。

高松ボランティア協会（高松市）が毎年開催しており6回目。今回は「たからもの」をテーマに、県内の養護学校の生徒などから募った。会場では、寄せられた詩に合わせて県内の人た

ちが描いた絵も展示。それぞれの作品の一部は、協会が作成した詩集絵本「いっしょに」にまとめられ、発売している。

協会の武田佳子事務局長は「展示会をきっかけに、障害のある人とない人が互いに理解し合えるようになればいい」と話していた。

午前8時半から午後5時15分（最終日は午後4時）まで。【瀧見雄大】



乃木坂46の“芸術家”若月佑美 障害者アーティストの作品に感動

東京スポーツ 2018年04月17日

発表会に出席した若月佑美

二科展デザイン部門で6年連続で入選しているアイドルグループ「乃木坂46」の若月佑美（23）が17日、都内で行われたアートコンテスト「SOMPOパラリンアートカップ2018」（一般社団法人・障がい者自立推進機構主催）の開催発表会に出席した。

審査員を務める若月は「昔から絵を描いたりデザインすることが好きだった。ずっと続けたいが、歌とダンスに忙しく、アートに触れる時間があまりないのが実情。私が審査員というのは恐れ多いが、もっといろいろな作品を見て勉強したいという気持ちから引き受けた」と話した。

過去の受賞作品を見て「私はどうしても引き算で考えてしまうけど、全体的に色使いが多いのにごちゃごちゃにならないのがすごいし、細部にまで凝っている細かさがすてき。常識にとらわれず、自分にはこう見えるという色で描いている」と感銘を受けた様子だ。

サッカーが盛んな静岡県出身。同コンテストはスポーツを題材にしているが「兄がサッカーをやっていて、父は審判というサッカー好きの家庭で育った。私もサッカーが好きでスポーツに興味がある」という。

今度は審査される側から審査する側に回る。「いつも作品を出す時には、絵の裏にある過程の気持ちをくみ取って、より深く見えてほしいなと思っている。だから、私が審査する時にも、その人が絵を描いた時の気持ちを考えたい。知らない世界を経験できたらいいな」と抱負を述べた。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

